

ふれあいボランティア活動 感想文集



令和5年度



認定NPO法人

さわやか青少年センター

ふれあいボランティアパスポート事業

令和5年度ふれあいボランティア活動感想文集発行にあたって

さわやか青少年センター（以下SSCという）は、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力』（自ら意欲的に生きていこうとする「自助の力」とみんなで助け合って生きていこうとする「共助の力」）を、青少年が自ら育むよう支援する認定NPO法人です。

SSCでは、地域社会の中で行うふれあいボランティア活動（当センターが提唱する学校や社会教育の「ボランティア体験学習」の中で人々とふれあって行うボランティア活動のこと）は、青少年が『人間力』を育むために最適な取組の一つであると考えています。

その児童生徒の「ボランティア体験学習」のきっかけ（動機付け）を提供し、支援するツールとして、SSCでは「ふれあいボランティアパスポート（以下、FVPという）」を学校や団体に無償で提供しています。

「ふれあいボランティア活動感想文」（以下、感想文という）の募集は、児童生徒の皆さんに1年を通じてFVPを活用した「ボランティア体験学習」に取り組んだ後に、感想文を書くことでその活動を振り返り、自らの学びや成長、今後に向けての意思を確認する機会とさせていただくことを目的として実施しています。当事業は、当法人設立時より今年度で12年目を迎えます。感想文集も12冊目の発行となりました。

この感想文集は、これまで多くの児童生徒が取り組んできた「ボランティア体験学習」の取組に対するそれぞれの思いを受賞者に代表していただく形でご紹介いたしております。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行され、多くの行事や活動が感染対策を継続しながら再開されました。ただ、実情はコロナに加え、インフルエンザも流行し、ボランティア体験学習には引き続き厳しい状況が続いた年度であったと拝察いたします。

そのようなためか、当年度の感想文募集事業では、小学生の応募が急減し、小学校、中学校、高等学校、団体（9校1団体）合計で、感想文78作品の応募となりました。

しかしながら、集まった感想文の活動内容からは、厳しい社会環境の中においても、児童生徒が様々な社会課題を見つけ、向き合い、課題解決に取り組む、『人間力』が育まれていることを感じ取ることができます。

FVP参加校、団体の教員、指導者の皆様には、困難な状況の中でFVPを活用した「ボランティア体験学習」を継続いただき、また、保護者や地域の皆様にも、ご理解、ご協力をいただきまして心より感謝申し上げます。

この感想文集を読まれた皆様におかれましては、近隣の学校、団体の皆様にもご紹介いただきまして、FVPを活用した「ボランティア体験学習」の輪を広げていただければ幸いです。

それでは、令和5年度の感想文、および選考委員の講評をお読みいただきたいと思います。

令和6年3月1日

認定NPO法人さわやか青少年センター

理事長 有馬 正史

◎ふれあいボランティアパスポート参加校一覧(巻末参照)
◎ホームページにも参加校、感想文集をご紹介します。
ダウンロードできます。(URL: <http://www.sc-tipo.or.jp>)

「ふれあいボランティア感想文」

応募総数78点(小学校5校・1団体20点、中学校1校1点、
高等学校3校57点)

○受賞者

【ふれあいボランティア活動感想文大賞】(1人)

秋田県鹿角市立十和田小学校6年

石垣 大翔さん
いしがき だいと

【小学生賞】(7人)

青森県弘前市岩木児童センター(小学校2年)

三上 晴睦さん
みかみ はるむ

千葉県栄町立安食小学校4年

高橋 ひまりさん
たかはし

青森県弘前市岩木児童センター(小学校4年)

平澤 莉緒さん
ひらさわ りお

青森県弘前市岩木児童センター(小学校5年)

三上 和真さん
みかみ かずま

鹿児島県南九州市立中福良小学校6年

木佐貫 月さん
きさぬき るな

鹿児島県南九州市立中福良小学校6年

榎山 漸さん
えのやま ぜん

福岡県筑紫野市立二日市小学校6年

合原 愛奈さん
ごうばら あいな

【中学生賞】(1人)

東京都小平市立小平第五中学校2年

多田 果夏子さん
ただ かなこ

【高校生賞】(7人)

東京都立六本木高等学校2年

伊佐 風花さん
いさ ふうか

東京都立六本木高等学校2年

榎田 小百合さん
くしだ さゆり

東京都立赤羽北桜高等学校2年

橋本 愛花さん
はしもと まなか

東京都立六本木高等学校2年

箕輪 七生さん
みのわ ななみ

東京都立六本木高等学校3年

門林 藍さん
かどばやし らん

東京都立稔ヶ丘高等学校3年

道口 美希さん
どうぐち みき

東京都立六本木高等学校3年

松澤 日向都さん
まつざわ ひなと

◆ふれあいボランティア感想文選考委員

選考委員長

公益財団法人八王子学園都市文化ふれあい財団理事長、
公益社団法人全国公民会連合会副会長、アナウンサー、
エッセイスト
村松 真貴子氏

選考委員

NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事長、
さわやか青少年センター理事
奥山 千鶴子氏

新渡戸文化学園理事長、

放課後NPOアフタースクール代表理事 平岩 国泰氏

元日本教育新聞社取締役編集局長、

公益財団法人理想教育財団理事
矢吹 正徳氏

◆講評

選考委員長

世界にとって・地球にとって今必要なこと

公益財団法人八王子学園都市文化ふれあい財団理事長、
公益社団法人全国公民会連合会副会長、アナウンサー、
エッセイスト
村松 真貴子

いろいろ体験してみないと世の中、わからないことだらけです。本の修理や整理をしてみると、本は丁寧に扱
い本棚にちゃんと返そうと思います。クリーン作戦に参

加したら、ごみを集め分別する大変さがわかります。さらに地球環境についても考えるようになります。車いすを体験すると、視線が低くなり見慣れた景色が一変します。段差も気になり、バリアフリーの視点で周りを見るようになるのですね。そんななかで、就学時健診のお手伝いをした時、この学校が楽しくて優しい人がたくさんいると思ってもらえるように奮闘した様子に、思わず涙がこぼれました。待っている間、退屈しないように読み聞かせをしたのも良かったです。

歌舞伎町でのごみ拾いには驚きました。ごみを集めるだけではなく酔っぱらっている人にも声をかけたのですね。勇気が要ったことでしょう。高校生になると、視野が広がり多角的な視点でボランティア活動を捉えるようになります。配給サービスを受けている人の言葉から、福祉のその先を見据える深い思考を持ったことは貴重な体験です。またボランティアパスポートのデジタル化、いいですね！ぜひ推進してください。

紛争が収まる気配が感じられず、世界が分断化に向かっている危機感を覚える現代。能登半島地震の被災者の役に立ちたい、高齢者や障がい者の暮らしやすい街づくりをしたい、誰かの喜ぶ顔が見たい……、そんなボランティア精神のもつ優しさや強さが、今世界に求められているような気がします。

この子たちの未来が明るいものであってほしい！
切に願わずにはいられません。

選考委員

感情が動くボランティア活動こそ豊かな社会につながる
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長、

さわやか青少年センター理事

奥山 千鶴子

ボランティアをすると様々な感情が生まれてくること
が伝わってきました。「気持ちがいい」「うれしい」「心が
温かくなる」「勇氣がでた」など、ボランティアをしたか
らこそ出会える感情が感想文にたくさん表現されていま
した。思い切って行動し、知らない世界に飛び込むこと
で、自分の中にいろんな感情が生まれていくという発見
は、さらに次の活動につながっているようです。

きれいに並んだ本、きれいになった境内、「気持ちがい
いな」と思うことで普段の片付けもできそうな気がして
くる、小さい子どものおもちや作りは人の役に立つだけ
でなく、周りと協力するともっとうまくいくという発見
や相手の立場にたって考えるところにもつながった
ようです。高校生の作品では、まちの清掃活動、困って
いる人に声をかける勇氣、自分ができることとしてヘア
ドネーションを行うなど活動はさらに地域や目の前にい
ない人たちへの思いにまで、深まっているようでした。

さて、今年の元旦に発生した能登半島地震には日本中
の人たちが驚きました。普段からボランティアをしている
た生徒の中から、自主的に募金活動を始めるという声
が上がる。一步の勇氣、発言や行動がみんなを動かす、そ
の発信や願いを受け止める社会があるということが、世

の中を豊かな社会にしていくと思います。

ボランティアという行動によって感情が動き、社会を
変えていける原動力になるのだと皆さんの作品から強く
感じました。これからもたくさんさんのエピソードを教え
てください。

一步踏み出す勇氣

新渡戸文化学園理事長、

放課後NPOアフタースクール代表理事 平岩 国泰

2024年は、年初に能登半島で大きな地震があり、
日本全国にとつて厳しい始まりとなりました。そのよう
な中、ふれあいボランティア活動の感想文を読ませてい
ただき、とても勇氣づけられる思いでした。早速に震災
対応の寄付金集めに動き出す皆さんの姿も描かれており
ました。その思いが被災地の方に届くことを強く願いま
した。

今回も小学生から高校生まで多くの方が新たな経験を
され、その気持ちを書き表してくださいました。この経
験は皆さんの中で「一步踏み出す勇氣」として蓄積され
たのではないのでしょうか。いずれの経験も、皆さん自身
が動かなければ実現しなかったですし、そのことが誰か
の笑顔として返ってきて、とても充実感があつたことと
思います。

私自身今まで生きてきて、人生は「一步踏み出せるか
どうか」で結構変わると感じます。大きな一步でなくて

よいのです。迷った時に小さな一歩でも半歩でも踏み出せたことがその後の人生を変えていきます。そしてその一歩出るかどうかは「それまでに踏み出した経験」が支えるように思います。今回のボランティアの経験が、皆さんの次の一歩を生み出す貴重な経験値になったと思いつても嬉しくなりました。

世界中で悩ましい出来事、事件が続いていますが、そんな時代をだからこそ、若い皆さんの一歩がますます重要です。どうかこれからもお互いに支え合って、頑張ってくださいましょう。

目の前の困りごとに多様な関わり方

元日本教育新聞社取締役編集局長、

公益財団法人理想教育財団理事

矢吹 正徳

年の初めに発生した能登半島地震が石川県を中心に甚大な被害を与えました。以来、さまざまな報道によって、地震災害を被った人々の姿が伝えられています。

その様子に反応して、被災地に向けた募金活動に着手した様子が「ふれあいボランティア活動感想文」によって知ることができます。日常的に取り組まれている赤い羽根募金活動の経験が、目の前の事態の変化に反応できる臨機応変さにつながりました。ボランティアとしてとても素晴らしい資質だと思います。

一方で、今回の応募作品から、地域の中で定着したボランティア活動に飛び込んで、成長している小学生たち

がたくさんいることがわかります。

中学生世代の作品が一つしかありませんでしたが、ボランティアパスポートのデジタル化にチャレンジし、幅広く活動に取り組もうと試行錯誤している生徒会の奮闘ぶりに触れることができました。

高校生世代は、部活動でボランティアとして参加している生徒から、ボランティア体験活動の報告、困っている人や地域の課題に向き合っている生徒、自分たちの特技をボランティア活動に生かすなど、多様な関わりがありました。

地域によつては、コロナ禍の影響でボランティア活動が継続できずにいるケースもあるでしょう。それでも人々の困りごとや、地域課題に向き合い、一歩踏み出す勇気を持ち続けることを願ってやみません。

受賞作品について

児童・生徒の原文に従って掲載しています。

一部、誤字等の修正、改行を加えている箇所があります。顔写真については、本人、保護者の承諾を得て掲載しています。

【ふれあいボランティア活動感想文大賞】 ぼくのボランティア活動

秋田県鹿角市立十和田小学校

6年 石垣 大翔



ぼくはこの一年間、いろいろなボランティア活動をしてきました。その中で、特に印象に残っていることがあります。

一つ目は、就学時検診のお手伝いです。ぼくたちは、新一年生のみんなが分かりやすいように誘導したり、説明したりしました。この学校が楽しくて、優しい人たちがたくさんいると思ってもらえるようにがんばりました。検査を待つまでの空き時間には、

「みんな集まって！本を読むからね。」

と、読み聞かせをしてあげることができました。新一年生も楽しそうに聞いてくれて、うれしかったです。また、新一年生がさわりだりざわざわして落ちつかない時には、

「静かにしてね。移動するよ。」

と、優しく声をかけるようにしました。きんちようしていたと思うけど、少し十和田小学校に慣れてくれたのではないかと思います。

二つ目は、地域のお祭りで大太



こをたたいたことと、じん句コンクールで最優秀賞をとったことです。

地域のお祭りでは、屋台の上に立つて大太こをたたきました。大太こは、「大の坂」「大びょうし」「高屋」などのひょうしがあります。それらの伝統や、昔の人の気持ちを受け継いでいきたいと思いながら一生けん命たたくことができました。

じん区コンクールは、毛馬内盆踊

りのじん句の歌詞を自分で考えて作るもので、今年初めて行われました。たくさんのおぼ者の中から、最優秀賞をもらうことができてとてもうれしかったです。

このような今年行ってきたボランティアや地域のためにしてきたことが、いろいろな人のためになったり、笑顔をつくることにつながったりしてきたと考えると、心が温かくなりました。改めて人のために自分ができることはたくさんあって、小さなことでも人のためにつながっているのだと思いました。



【小学生賞】

ぼくは本のしゅうりやさん

青森県弘前市岩木児童センター

2年 三上 晴睦



ぼくは、岩木じどうセンターで、ふれあいボランティアサークルに入っています。サークルでは、本のしゅうりや、本のせいとん、せいれつなどをしています。

じどうセンターには、たくさんの本があります。でも、その本だなは、いつもぐちゃぐちゃでした。ぼくは、読書が大好きなので、本だなを、きれいにするのかけりをやることにしました。

ぼくが、このかけりをして、たのしいとかんじるときは、きれいに本の一かんからじゅんばんに、さいごまでそろえたときと、やぶれた本にテープをはって、もどおりきれいになおったときです。

たいへんなときは、たくさんのページが、やぶれているときです。せつかくなおしても、一週間ごとに、またやぶれているときは、すぐおたいへんです。でも、きれいになおすと、みんなが読みやすくなるので、とつても気もちがいいです。

本が、どこかへいってしまって、みつからないときもあって、すぐこまります。みんなにも、本を読んだら、なるべくとのばしよに、もどしてほしいと思います。ぼくは、このボランティアサークルに入って、にがてだ



ったかたづけがとくになりました。そして、やっぱりぼくは読書と本がすきだなあと、かんじました。

これからも、いっぱい本をおして、みんなが気もちよく読めるように、本のしゅうりやさんを、がんばっていきたいです。

そして、本たちも、みんなげんきになれるといいです。

少年消防団に入ってまなんだこと

千葉県栄町立安食小学校

4年 高橋 ひまり



わたしは、年に数回活動している、少年消防団に入団しています。

はじめのころはせいれつや、けいれいの練習をしました。さいしよは、けいれいの手のいちがむずかしかったです。でも、今ではけいれいがじょうずにできるようになりました。

次に習ったのは、土のう作りです。

わたしは、土のう作りをやって、災害などで水からまもるやくわりをしている事がわかりました。

夏休み中に、千葉県西部防災センターに行きました。さいしよに、消火訓練をしました。消火訓練では、消火器で、えいぞうにながれている火を消しました。やりおわたあと



におしえてもらったことがあります。消火器の中にはいつているのは、水ではなくピンク色の、えきたいだということと、消火器の種類は、三種類だということですよ。

ほかには、火事になった時の体験です。わたしは、火事になった時、走ってしまおうと思います。でも走ってしまおうと、転んだりしてケガをしてしまうので手やはんかちで口をおさえて、しせいをひくくしてひなんすることを教えてもらいました。

分からなかった事を体験できて、色々な事をまなべたのでこれからもせつきよくてきに参加していきたいです。

がんばったボランティア

青森県弘前市岩木児童センター

4年 平澤 莉緒



わたしは、今年初めてボランティアの活動をしました。一つ目の活動は、保育園ほう間です。保育園では、ダンスと紙しばいとスポーツパフォーマンスをしました。毎日つかれたけどがんばりました。スポーツパフォーマンスでは、フラフープをやりました。保育園の年長さんが、センターに来た時に「楽しい」と思ってくれるようにがんばって練習しました。ダンスはたくさん練習しました。ふりつけをおぼえるのがむずかかったです。家でもたくさん練習しました。本番わたしは上手にやれるか心配でした。とてもきんちようしたけれど上手くおどれました。むずかしいふりつけも完ぺきにおどれました。最後

に、園児にマスコットのようなものを作るために一生けん命作りました。園児がよるこんでくれてうれしかったです。

二つ目は、おもちゃ作りの事です。センターのおもちゃが古くてぼろぼろだったので作り直しました。6人くらいで作りました。マンカラというおもちゃを作りました。わたしは大変そうだなと思いました。作っているうちにボランティアは協力も大事なんだなあと思いました。わたしは色をぬりました。遊んだ人がいい色と思ってくれるように色をぬりました。完せした時は、みんなががんばったと思いました。遊んでいた人を見てボランティアがいいなと思いました。

最初はボランティアが何をするのか全く知りませんでしたが、先生の話聞いて分かりました。人の役に立ついい仕事で、しっかりがんばる仕事だと思いました。わたしは、ボランティアサークルにはいつて人の役に立つ仕事が出来たと思います。これからも人の役に立つてがんばっていききたいです。



これからも

青森県弘前市岩木児童センター

5年 三上 和真



「ありがとうございます。」
種類別に本を整とんしているぼくに先生がうれしそうに言った。

「本を返してこよう。」

元の場所に本を返しに行ったときだった。整とんされていない、本がごちゃごちゃになった本だが目に入った。見て見ぬふりをしてこの場をはなれたかったが、あまりにもきたないから、整とんしに行った。

「なんでたてにして入れていけないのだろう。」

と思ったつかのま、整とんしているぼくの横ですぐに、本を横にしておいていく、何も空気を読んでいない人がいた。

「ちゃんとたてにしておいていけよ。」

と、がつんと言ってやりたかったが自分の気持ちをおさえて本をたてにして入れた。

でも、先生にお礼を言われたから、良いことをしたなと、心の底から思えた。

ボランティアをしたことによつて、相手がどんな気持ちになるか、どんなことを思うか、自分で考えられるようになったり、ささいな小さな



ことにも気が付いたりするように、注意力も前よりも増えた。

僕は、ボランティアはただするだけでなく、相手の気持ちや立場を考えて、自分にできることをすることが大切だと知りました。

また、他人のことを考えて行動できるようになったり、自分のためにもなりました。

これからもこのようなボランティアを続けていきたいです。

ぜひ、みんなもやってみましょう。

ボランティア活動

鹿児島南九州市立中福良小学校

6年 木佐貫 月



私たちの小学校では、毎年近くの白石神社と研修館でボランティア清掃活動をしている。全児童二十名と先生方が運動会の赤組と白組に分かれてそれぞれの場所に行く。

まず、先生からボランティアとは、地域のためによいと思うことを自分から進んですることで様々なボランティア活動があると教わった。今年も、小学生として最後のボランティア清掃活動なので、地域のために精一杯がんばろうと思った。

白組は、研修館に行くことになった。研修館には、ものすごい量の落ち葉が落ちていて下級生に指示しながら

一緒に拾った。それが終わると、みんな他にすることがないか自分たちで探していた。みんな一生けん命だ。山積みの一輪車を運んでいる子に、



「私が代わって運ぼうか。」と声をかけると、

「いいよ、大丈夫。」

と言われて、下級生がとてもたのしく感じられた。

あんなにたくさんあった落ち葉だったが、すみずみまですっきりきれいになった。それを見た時、すがすがしい気持ちとやりとげた達成感があった。みんなで力を合わせた結果だと思う。今までずっと中福良小学校が続けてきたボランティア清掃活動。これからもずっと続けて中福良の地域がきれいで住みよい地域であり続けてほしいと願う。そして、これから先も自分ができるボランティア活動をしていきたいと思う。



ボランティア活動

鹿児島南九州市立中福良小学校

6年 櫛山 漸



今日は、ボランティア活動の日。小学校近くにある白石神社の清掃活動に運動会の赤組のみんななど行った。この神社は、地域にあるたった一つの神社で、地域のみんなで守り続けている神社だ。

白石神社に行くと、一面銀杏の実や落ち葉でいっぱいだった。ぼくは、くま手を持って銀杏や落ち葉を集めた。神社を訪れる人のためにみんな一生けん命に集めていたので、ぼくも六年生として下級生のお手本となるようがんばらなきゃと思いつくやべらずに作業をした。集めてい



ると銀杏の匂いがしたが、がんばってやっていると自然に手が動いて、次に何をすればよいのかを考えられるようになり、銀杏の匂いも気にならなくなっていた。来た時は、去年以上に落ちていた銀杏と落ち葉だったけれど、一人一人ががんばって、すっきりきれいな境内になった。集めた落ち葉や銀杏は、大きなふくろに五ふくろにもなり、がんばったと感じた。リアカーは、落ち葉と銀杏でいっぱいだ。ずっしりと重くなったリアカーを高学年で学校まで運んだ。学校までの帰り道、地域の人たちが、「白石神社をきれいにしてくれてありがとう。」

と声をかけてくださった。その言葉で秋の風がより一層心地よく感じられた。

小学生としてのボランティア清掃活動は、最後となったけれど、ボランティア活動は、どこでも時間があればできるのでこれからも自分でできるボランティア活動を続けていきたいと思う。ぼくが、ボランティア活動をすることで喜んで嬉しい気持ちになってくれる人がいたら

うれしいな。そして、中福良の地域がこれからも綺麗で
素敵な町であり続けてほしいと願っている。

みんなでボランティア

福岡県筑紫野市立二日市小学校

6年 合原 愛奈



「えっー。」
という声がひびいた。一月一日午後四時十分石川県能登
半島地震がおきた。震度七はとてもおどろいた。親戚の
みんなテレビを見ていたら、余震のたびにテレビに表
示されて怖かった。

学校が始まった。友達五人で喋っていて、
「怖いよね。」

と話していて、友達の一人在

「石川県でおきた地震の募金活動したいよね。」

という話になり、先生に提案したら、

「いいねー。ナイス提案だね。」

と先生がおっしゃってくださった。とても嬉しかった。

そして、一目目。自分も募金した。

「この十円が誰かの役に立てればいいな。」

と思っていたら募金が楽しくなってきた。

「おはようございます。能登半島地震の募金です。」
一円十円五百円。金額は違うけど、募金してくれた人み
んな助けたいと思う気持ちがあると思った。募金しても
らった時にやりがいがあった。一日で合計七千円くらい

だった。まだ始めて五日だけたくさん募金する人がた
くさんいて嬉しい。

みんなで募金していると、みんなでボランティアをし
ている感じだ。募金してくれる人は、いつもみんな笑顔
だ。

「この計画をしていなかったら、この募金のお金はない
よ。」

と先生に言われたとき、もつとがんばりたいと思った。



【中学生賞】

ボランティア活動でより良い学校へ

東京都小平市立小平第五中学校

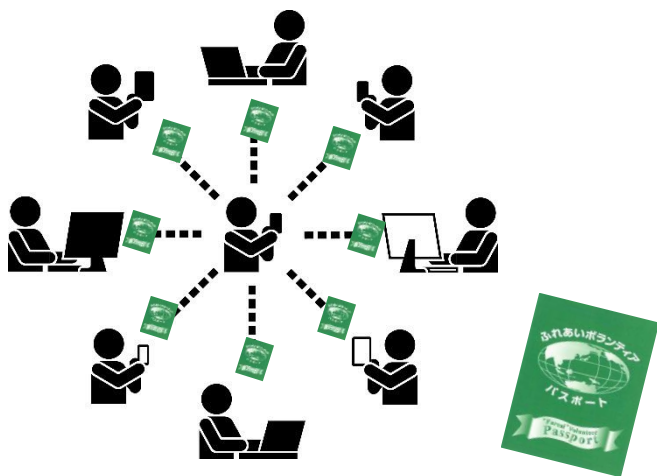
2年 多田 果夏子



今年度もふれあいボランティアに参加させていただき、ありがとうございます。私たち小平第五中学校は、ふれあいボランティアに参加させていただいてから約4年になります。ふれあいボランティア活動をを行うことで、ボランティア参加者も少しずつ増え、学校全体が慈善活動に対して、より前向きになったと感じています。今後とも五中生徒ひとりひとりのボランティアへの関心が、更に高まってほしいと思います。

五中生徒会では、今年度よりボランティアパスポートをデジタル化しました。参加状況を提出する時間に指定がないので、行った活動をすぐに記入することができ、家族で遊びに行った先で行った砂浜でのゴミ拾いや個々で参加した募金活動など、学校外の活動も増えました。また、生徒から寄せられた感想では「あいさつ・ゴミ拾いなどを行うことで、世界のさまざまな問題を解決することにつながるの嬉しい。」「SDGsに関心を持った。」などの声も出ています。そして、「ふれあいボランティアの仕組みについて知りたい。」という声も聞きました。ボランティアパスポートのデジタル化については、良い面もありますがまだまだ課題もあるので、試行錯誤しながら取り組んで行きたいと思います。

小平五中の一員として、ふれあいボランティアをさらに増やすためにはどうすべきか、考えています。具体的には、校舎内のポスター掲示、朝礼での呼びかけ、落ち葉拾いやあいさつDAYの企画を行っています。これからもボランティア活動に積極的な学校を目指して、頑張っていきたいと思います。



**ボランティア
募集中**



【高校生賞】

勇気を出して

東京都立六本木高等学校

2年 伊佐 風花

去年の冬、最寄り駅で電車を降りて改札へ向かっている途中に、シルバーカーを持って歩きづらそうに階段を下っている高齢者の女性を見かけました。エレベーターで下れば安全なのだと思いますが、またホームまで戻ってエレベーターに乗るのもきつと負担で、このまま一人でシルバーカーを抱えながら階段を下ると、転倒のリスクがあると考えました。見知らぬ方に世話焼きをするのはとても抵抗がありました。誰か他の方がしてくれるのを待っている間に防げたはずの事故が起こる方が嫌なので、勇気を出し、

「手伝います。」

と声を掛けました。シルバーカーを手に取り、もう片方の手で、女性の手をしっかりと握りました。二人で一段一段ゆっくり下り、何事も無く改札へたどり着いた時、女性が素敵な笑顔で、

「助かりました、ありがとうございます。」

と言ってくれました。私は昔から人見知りで、初対面の方とコミュニケーションを取れる程のフレンドリーさも社会性ありませんでした。けど、あの日駅で困っていた高齢者の女性に、素敵な笑顔と感謝をいただけた



事で、勇気を出して声を掛けて良かったと強く思います。あの時の勇気が今では自信に変わって、今は高齢者の方に関する資格を取り、福祉関係のアルバイトにはげんでいます。もちろん道や駅などで困っている方、高齢者に限らず、何の抵抗も無く声を掛けられるようになりました。

音楽の力で全ての人に元氣と笑顔を！

東京都立六本木高等学校

2年 櫛田 小百合

ボランティア活動として多くの人が思い浮かべることに、音楽活動は含まれにくいように思う。しかし、私は音楽こそ全ての人が笑顔になれる至高のボランティアだと考える。

私は都立六本木高校合唱部に在籍している。令和五年十月十五日、私たち合唱部は「グループホーム広尾」で開催された「わいわい祭り」のキヤストとして、ボランティアで出演させてもらった。決定当初はグループホームという施設を知らなかったため、すぐに調べて高齢者介護施設だと知り不安を抱いたことが記憶に新しい。なぜなら、高齢者の方が知らないであろう最近の曲を合唱アレンジで歌うことになっていたからである。知らない曲でも笑顔を見せてもらえるか、当時の私はかなり緊張していた。

さて、「わいわい祭り」当日になり大成功した演奏を

喜ぶ傍ら、私は今まで大きな誤解をしていたことに気が付いていた。それは演奏中や演奏後にお客さんである高齢者の方々がとても幸せそうに笑っていたからである。たとえ知らない曲だとしても、それを気にさせないくらいの力が音楽に宿っていることをひしひしと感じ、演奏が成功した達成感はもちろん、演奏後に大きな拍手で感謝を伝えてくれた高齢者の方々の嬉しさや充実感を覚えた。

音楽は全ての人が笑顔になれるボランティアである。そして、全ての人に元氣と幸せを届ける活動である。私はこのできごとを経て、もつと多くの人に私たちの音楽を届けたいと思うようになった。全ての人に元氣と笑顔を届けられるように、合唱部として活動していきたい。

自分ができることをする

東京都立六本木高等学校

2年 箕輪 七生

私は過去に2回、ヘアドネーションを行いました。31cm以上の長さが必要だったので、腰より下になるまで髪を伸ばしました。特に髪の毛が大変で35〜40度の人の肌の温度で洗い、拭き終わったらすぐにくしでとかし、トリートメントを毎日しました。



正直、めんどくさいと感じることは何度もありましたがどうせなら綺麗なウィッグを届けたいと思い、日々のヘアケアを頑張りました。自分の髪で作った医療用ウィッグが必要としている子たちに届いて、その子たちを笑顔にしているのを想像すると、とても幸せな気持ちになります。次もまたヘアドネーションを行うために、髪を伸ばしている最中なのでこれからも頑張ります。

また、初めて授業で車椅子に乗ったとき自分のペースではなく、他の人のペースで体が進んで行くのが少し怖かったです。普段はあまり意識していない小さな段差も、車椅子だと動きづらくて大変でした。目線もだいぶ低くなって、日頃よく行く場所がいつもより大きく感じました。ユニバーサルデザインの自販機は、普通の自販機よりコインの投入口が大きかったり、商品の選択ボタンが高い位置と低い位置の両方に設置されていたりして、車椅子を経験してからは使いやすさがわかりました。特に大変だったのが、大きな段差で車椅子を持ち上げるようにして傾けるので、エレベーターや手すりを作る必要性を再認識しました。これからはその体験を元に、車椅子を使う人をサポートしていきたいです。



私が福祉を学ぶ理由

東京都立赤羽北桜高等学校

2年 橋本 愛花



私の将来の夢は、世界で活躍する介護福祉士になることです。小学生の頃に歴史の授業で世界の福祉について学び、祖父が認知症で身近だったこともあり、介護の視点から海外の福祉の役に立ちたいと考えるようになったからです。国外の福祉について知識を深めるとなると、実際に海外で生活するのが最善だと思いますが、金銭の問題や私自身の語学力に問題があり、すぐに実行することは叶わないと感じました。それならば、と高校では社会福祉部に所属し、ボランティアを通じて国内に居る外国籍の方と交流をしたいと考えるようになりました。

幼少期から地域のお手伝いに参加したり、ボランティアとは遠くない生活をしていたので、自分自身が好きな人の役に立つ活動をしながら将来の夢に近づけることを楽しみにしていました。しかし、高校でのボランティアは国内のことばかりでした。最寄り駅でのティッシュ配りやお祭りのお手伝い、駅周辺のゴミ拾い、浜辺に流れついたプラスチックの回収、放課後等デイサービスへの訪問、最近では能登半島地震の募金も行いました。その中で、海外の福祉を整えることも大切だけれど、まずは自国を誰もが認め合える体制に変えなくてはと気付かされました。配給のボランティアをしている際に高齢の男性が、

「俺を悲しそうだと思うか。確かに皆のサポートを受けている。けど、自分らしく生きている。俺は悲しうにしていけないといけないのか。笑ってはいけないのだろうか。」と仰っていたのをいつも思い出します。



私達、福祉を学ぶ者は、その人の生活だけをサポートすれば良いのでしょうか。その人らしさを支援する日本、その人が困る前に防ぎ、その人の未来を守る、そんな国、福祉の先進国に日本をするために、私はこれからもボランティアを通して福祉を知り続けます。

ボランティアに参加すること

東京都立六本木高等学校

3年 門林 藍

私は、ボランティアに参加することが、人として成長するきっかけになると考えます。なぜなら、今まで感じたことのない新しい価値観に出会えるからです。

二年次の秋、酉の市のお祭りの手伝いに参加しました。私は子供達が多く来る射的を担当しました。お店の設営から、的の準備を地域の方々と一緒にやりました。いざ、子供達が来ると緊張しましたが、目の前で自分が用意した物で「楽しい、もう一回」と喜んでもらえてとてもうれしくなりました。この瞬間のためにまた頑張る準備

したいと思うほどの達成感でした。
お祭りには、子供達だけでなく多くの
人が来ていました。高齢者や障害を持
っている方でもみんなが楽しいと喜
んでももらいたいと思うようになりま
した。

学校の授業で来てくださっている
視覚障害の方や、言語聴覚士の方から
健常者の私達にして欲しいこと、今困

っていることなど学んだことがボラン
ティアに活かされ
ると思えました。道で困っている方への声かけやイベ
ントで楽しんでもらうための工夫など、知識を身につけて
いることで、より良いボランティアに繋がると思います。

このことから、ボランティアに参加することで自分の
視野が広がり、新しい価値観に気づくことが出来ます。
普段の生活の中でも、挨拶をする、部屋の掃除をするな
ど自分がやれそうなものから経験を積んでいくことが人
生を豊かにする一歩だと思えます。

歌舞伎町は汚な過ぎる

「汚ない。」

歌舞伎町へ訪れる誰しもが思うはずです。東京へ移住
しまもない頃。当時のネット上では「歌舞伎町は若者に



東京都立穂ヶ丘高等学校

3年 道口 美希

とって夢がある。「その場に行きたい。」などと沢山の声
があがっており、私も興味が沸きその場へ足を踏み込み
ました。

私は息を飲み込みました。あまりにも想像を絶する場
だったのです。路上で寝る人、警察に押し抑えられてい
る人。ホストと客の揉め合い。それと今
回のテーマ、ポイ捨て。

私は思いました。「臭いし汚ないこの
場を私は何とかしたい。」と決心しまし
た。それには声かけが充分必要でした。
まずは路上で寝ている巨体な女の人の
周辺を掃除し女の人にゴミはゴミ箱へ
捨てるよう言いました。女の人は「面倒
だ、無駄なことだ」の一点張りでした。
仕方なくコンビニのビニール袋をプレ
ゼントし、その場を凌ぎました。

次は、ポイ捨てです。特に多かったの
はタバコのポイ捨てが多かったと個人
的に思います。小さい子も見ている中、
大の大人が平然と捨てるのは見過ごせ
なく、片手にビニール袋を持ち、声かけ
をしました。周辺のゴミも捨てられて、周
りが本当に綺麗になっていき、凄く達
成感を得られました。

今後この活動を私は続けたいと思います。少しでも綺
麗な町になるよう、声かけと行動にうつし頑張ってい
たいです。



ボランティアの体験

東京都立六本木高等学校

3年 松澤 日向都

私の体験したボランティアは、外国人観光客の方々の道案内です。その体験をしたのは私が高校三年生の六月のことです。私は学校帰りは最寄り駅から二駅先までよく歩いていました。いつものように二駅先まで歩いていたら、急に声を掛けられました。

声を掛けてきたのは、ガタイの良い外国人の男性でした。他にも後ろに男女5人いました。この方達が私に声を掛けた理由は浅草までの行き方を教えてほしいということでした。それくらいなら教えようと思っていたのですが、相手は英語しか話せず、こちらも日本語しか話せないため、道案内は難航しました。なんとかジェスチャーで伝えようとしたのですが、最終的に私が目的地に行く駅まで連れて行く事になりました。

駅まで送り切った時、別れ際にとても笑顔で感謝され、言葉が分からなくても道案内をして良かったと思いました。

二つ目に体験したボランティアは公園の清掃です。私が中学生の頃、私と友人たちが遊ぶのに使っていた公園がありました。公園には高齢者の方が集まって井戸端会議をしていたり子ども達が必ずいるような場所でした。人も多く来るのでポイ捨てされたゴミなどがよく落ちていました。私達もよく使う為、汚いのは嫌なので友達と

協力して見えるゴミは拾っていききました。ゴミがなくなった公園は綺麗になって嬉しくなりました。この経験から自分と使う人が心地よい空間として使えるようにボランティアを続けていこうと思いました。



令和5年度ふれあいボランティアパスポート参加校・団体リスト(令和6年3月現在)

参加校・団体数78校6団体

参加児童・生徒数20,181人

1	青森県		弘前市岩木児童センター	42			小郡市立味坂小学校		
2	岩手県		盛岡市立月が丘小学校	43			小郡市立小郡小学校		
3			盛岡市立厨川中学校	44			小郡市立御原小学校		
4			鹿角市立花輪小学校	45			小郡市立立石小学校		
5	秋田県	鹿角市教育委員会	鹿角市立栄平小学校	46	小郡市青少年育成市民会		小郡市立三國小学校		
6			鹿角市立十和田小学校	47			小郡市立大原小学校		
7			鹿角市立大湯小学校	48			小郡市立東野小学校		
8			鹿角市立尾去沢小学校	49			小郡市立のぞみが丘小学校		
9			鹿角市立八幡平小学校	50			小郡市立宝城中学校		
10			鹿角市立花輪中学校	51			小郡市立大原中学校		
11			鹿角市立十和田中学校	52			小郡市立立石中学校		
12			鹿角市立尾去沢中学校	53			小郡市立小郡中学校		
13			鹿角市立八幡平中学校	54			小郡市立三國中学校		
14			山形県	山形県青年の家			新庄市立新庄中学校	55	福岡県
15	最上郡銚川村立銚川小学校	56			踊る隣組				
16	最上郡銚川村立銚川中学校	57			大牟田市立みなと小学校				
17	YV:「SAKEKKO」(銚川村)	58			大牟田市立駿馬小学校				
18	最上郡舟形町立舟形小学校	59			大牟田市立大牟田中央小学校				
19	最上郡舟形町立舟形中学校	60			大牟田市立大正小学校				
20	YV:「ふなっ子」(舟形町)	61			大牟田市立中友小学校				
21	山形県立山野辺高等学校	62			大牟田市立明治小学校				
22	YV:「Bin's」(鶴岡市)	63			大牟田市立白川小学校				
23	YV:「夢喰布(ぼけっと)」(大江町)	64			大牟田市立高取小学校				
24	茨城県		つくば市立茎崎第一小学校	65	大牟田市		大牟田市立三池小学校		
25	埼玉県		埼玉県行田市立埼玉中学校	66			大牟田市立羽山台小学校		
26	千葉県	栄町栄町社会福祉協	栄町立安食小学校	67			大牟田市立銀水小学校		
27			栄町立安食台小学校	68			大牟田市立上内小学校		
28			栄町立布織小学校	69			大牟田市立倉永小学校		
29			栄町立竜角寺台小学校	70			大牟田市立手織小学校		
30			栄町立栄中学校	71			大牟田市立橋中学校		
31			品川区立荏原平塚学園(義務教育学校)	72			大牟田市立宮原中学校		
32		FA	品川区立品川学園(義務教育学校)	73			筑紫野市		筑紫野市立二日市小学校
33			北区立浮間中学校	74			佐賀県	FA	神埼市立神埼小学校
34			小平市立小平第一小学校	75	神埼市立西郷小学校				
35	東京都		小平市立小平第五小学校	76	神埼市立青振小学校				
36			小平市立小平第五中学校	77	神埼市立千代田西部小学校				
37			小平市立花小金井南中学校	78	神埼市立千代田中部小学校				
38		FA	武蔵村山市立小中一貫校村山学園	79	神埼市立千代田東部小学校				
39		FA	都立六本木高等学校	80	神埼市立仁比山小学校				
40			東京都立麹ヶ丘高等学校	81	神埼市立神埼中学校				
41			東京都立赤羽北桜高等学校	82	神埼市立青振中学校				
◇ふれあいボランティアパスポートフレンズ(FA) (FA):教育委員会や学校・団体が作成したオリジナルふれあいボランティアパスポートを使用して参加いただいています。				83					神埼市立千代田中学校
◇取りまとめ団体(教育委員会・団体) 管轄教育委員会の全小中学校を取りまとめて参加いただいています。 ◇都道府県市町村名のみのは、各校単独申込です。 ※YV=やまがたヤングボランティアサークル				84	鹿児島県		南九州市立中福良小学校		

令和5年度ふれあいボランティア活動感想文集

令和6年3月発行

認定NPO法人さわやか青少年センター

〒167-0043 東京都杉並区天沼3-7-3

荻窪法人会館3階

TEL : 03-6279-9236 FAX : 03-6279-9256

URL : <http://www.ssc-npo.or.jp> / E-mail : info@ssc-npo.or.jp